

第2章 計画地及びその周辺地域の概況並びに環境の特性

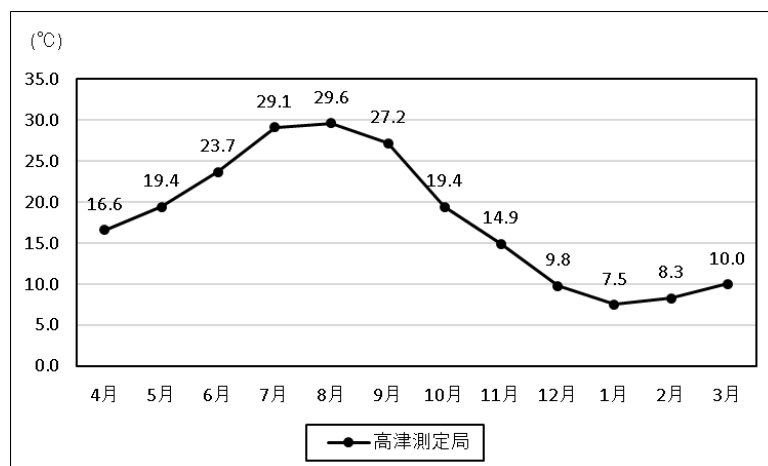
2.1 計画地及びその周辺地域の概況

2.1.1 気象の状況

(1) 気温

計画地周辺の一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）である高津測定局における令和5年度の月別平均気温は図2.1-1に、測定局の位置は図2.1-3に示すとおりである。

月別平均気温が最も高いのは8月、最も低いのは1月であり、年間平均気温は18.0℃である。



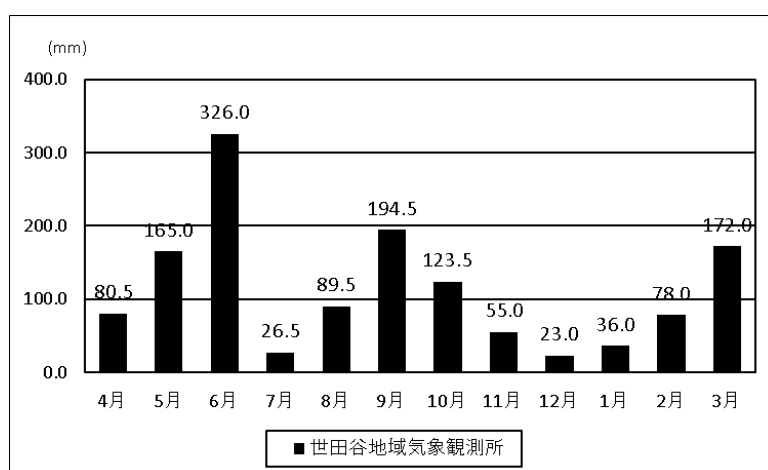
出典：「川崎市大気データ」（川崎市 HP）

図 2.1-1 月別平均気温（令和5年度）

(2) 降水量

計画地最寄りの地域気象観測所である世田谷地域気象観測所における令和5年度の月別降水量は、図2.1-2に示すとおりである（測定局の位置は、図2.1-3を参照）。

月別降水量は23.0mm～326.0mmで推移しており、年間降水量は1,369.5mmである。



出典：「過去の気象データ検索」（気象庁 HP）

図 2.1-2 月別降水量（令和5年度）

(3) 風向・風速

高津測定局における令和5年度の月別最多風向及び月別平均風速は表2.1-1に、年間風配図及び風向別平均風速は図2.1-4に示すとおりである。

年間平均風速は1.9m/sであり、年間最多風向は北北西であり、4月～9月に南寄りの風向が卓越する傾向がみられる。

表2.1-1 最多風向及び平均風速（令和5年度）

年月		高津測定局		
		最多風向	出現率 (%)	平均風速 (m/s)
令和5年	4月	南	22.0	2.1
	5月	南	20.7	1.9
	6月	南	18.6	1.5
	7月	南	26.4	1.7
	8月	南	28.8	1.7
	9月	南	21.9	1.7
	10月	北北西	34.0	1.9
	11月	北北西	30.0	1.8
	12月	北北西	28.9	1.7
令和6年	1月	北北西	37.8	2.0
	2月	北北西	32.4	2.3
	3月	北北西	39.4	2.4
年間		北北西	22.6	1.9

注：平均風速は、各月・年間通じての値で、静穏時の風速も計算に入れている。

出典：「川崎市大気データ」（川崎市HP）

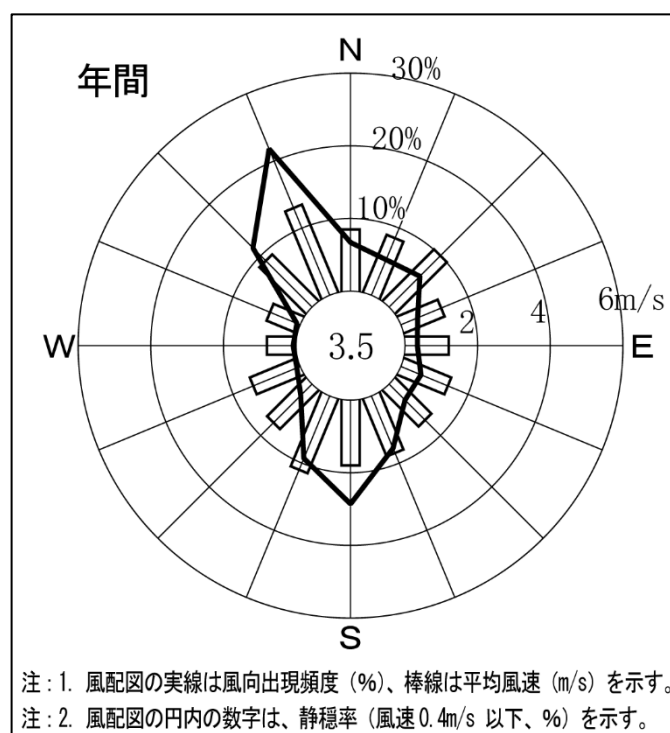


図2.1-4 高津測定局における年間風配図（令和5年度）

2.1.2 地象の状況

計画地の南側は一般国道 409 号に面しており、計画地北西側には東急田園都市線及び東急大井町線が近接している。

計画地及び周辺は平地で、標高（T.P.※）は約 13～14m 程度である。

計画地及びその周辺の表層地質は、泥を主とする低湿地堆積物である。

計画地及びその周辺の土壌は、人工改変低地土の市街地である。

※T.P.：東京湾平均海面（地表面の海面からの高さを表す場合の基準海面）

出典：「横浜・東京西南部・東京東南部・木更津表層地質図」（平成 3 年 3 月発行、神奈川県）

出典：「横浜・東京西南部・東京東南部・木更津土壌図」（平成 3 年 3 月発行、神奈川県）

2.1.3 水象の状況

(1) 河川及び地下水等の状況

計画地周辺の河川及び地下水位の調査地点等は、図 2.1-5 に示すとおりである。

計画地北東側に一級河川である多摩川が、計画地南側に普通河川である二ヶ領用水が流れており、二ヶ領用水の上流には、国の登録有形文化財に登録されている「二ヶ領用水久地円筒分水」がある。

また、代表的な湧水として計画地南西側に「梶ヶ谷第一公園湧水地」がある。

計画地内には確認された湧水は存在しない。

出典：「市内文化財案内」（令和 7 年 1 月閲覧、川崎市教育委員会 HP）

出典：「代表的な湧水」（令和 7 年 1 月閲覧、環境省 HP）

計画地周辺の地下水位は、計画地の南南東側約 600m の坂戸観測所（高津区坂戸 1-18-1）で観測されており、令和 4 年度の年平均水位（井戸の管頭から水面までの深さ）は-8.48m である。

出典：「令和 4 年度水環境データ集」（令和 6 年 6 月更新、川崎市 HP）

(2) 浸水等の被害

計画地の位置する高津区の令和元年度～令和 5 年度の住家浸水被害発生状況は、表 2.1-2 に示すとおりである。

令和元年度は台風第 19 号等の災害が川崎市に甚大な被害をもたらした。

また、計画地は多摩川水系における洪水浸水想定区域において、河川が氾濫した場合に浸水が想定される範囲とされており、浸水深の目安として 3.0m 以下とされている。

出典：「洪水ハザードマップ 高津区版」（令和 4 年 10 月作成、川崎市 HP）

表 2.1-2 住家浸水被害発生状況（令和元年度～令和 5 年度）

年度		令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
高津区	床上（棟）	965	0	0	1	0
	床下（棟）	163	0	0	0	0

注：令和元年度については、発行済みの罹災証明書をもとに集計したため、罹災証明書の件数単位。

出典：「令和 5 年度 川崎市の災害概要」（令和 6 年 7 月発行、川崎市 HP）

2.1.4 植物、動物の状況

計画地のある川崎市高津区は、多摩丘陵の緑と多摩川の水辺など豊かな自然に恵まれたまちであり、多摩川や二ヶ領用水に形づくられた平坦地と、多摩丘陵の一角を形成する丘陵地、さらに、それらをつなぐ多摩川崖線の斜面緑地によって区域が構成され、起伏ある地形が特徴となっている。

現在の計画地は東側は事業所跡地で西側はレジャー施設等となっており、動物の主要な生息環境になっていない。

計画地の北東側を流れる多摩川において「河川水辺の国勢調査」が行われており、2014年に新二子橋上流部において行われた植物調査では241種の植物が、2021年に新二子橋において行われた魚類調査では21種の魚類が、2022年に新二子橋において行われた底生動物調査では150種の底生動物が、2013年に新二子橋周辺（多摩川河口より17km～19km）において30種の鳥類が、2018年に東名高速多摩川橋下流地点において行われた両生類・爬虫類・哺乳類調査では10種の両生類・爬虫類・哺乳類が、2019年に第三京浜下流部において行われた陸上昆虫類等調査では408種の陸上昆虫類等が確認された。

出典：「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査」（令和6年10月更新、国土交通省HP）

また、川崎市内全域を対象とした野生種子植物の生育調査結果（2010年から2015年に実施）では、高津区において105科の野生種子植物が確認された。

出典：「第8次川崎市自然環境調査報告書」
（2016年3月、川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団）

計画地及びその周辺の現存植生図は図2.1-6に、潜在自然植生図は図2.1-7に示すとおりである。

計画地及び計画地周辺の植生は「市街地」となっている。

計画地の潜在自然植生は「シラカシ群集 ケヤキ亜群集」に相当する。

出典：「自然環境調査Web-GIS」（令和7年1月閲覧、環境省自然環境局HP）
出典：「川崎市および周辺の植生-環境保全と環境保全林創造に対する植生学的研究-」
（昭和56年3月、宮脇昭ほか・横浜植生学会）

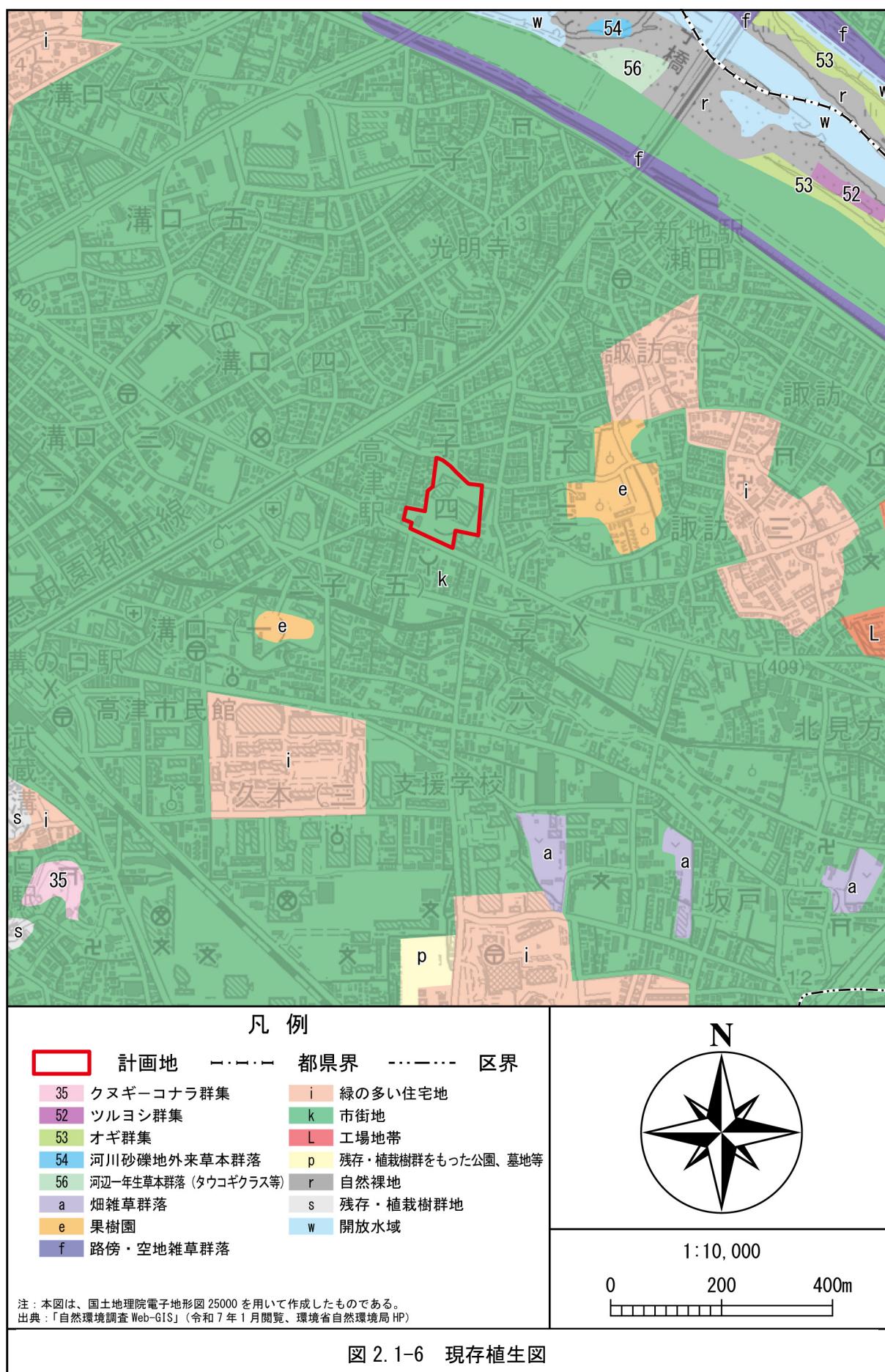
農地の状況は、「神奈川県土地利用現況図(DVD)」（令和6年、神奈川県県土整備局都市部都市計画課）において計画地周辺に農地は確認できない（図2.1-11参照）。

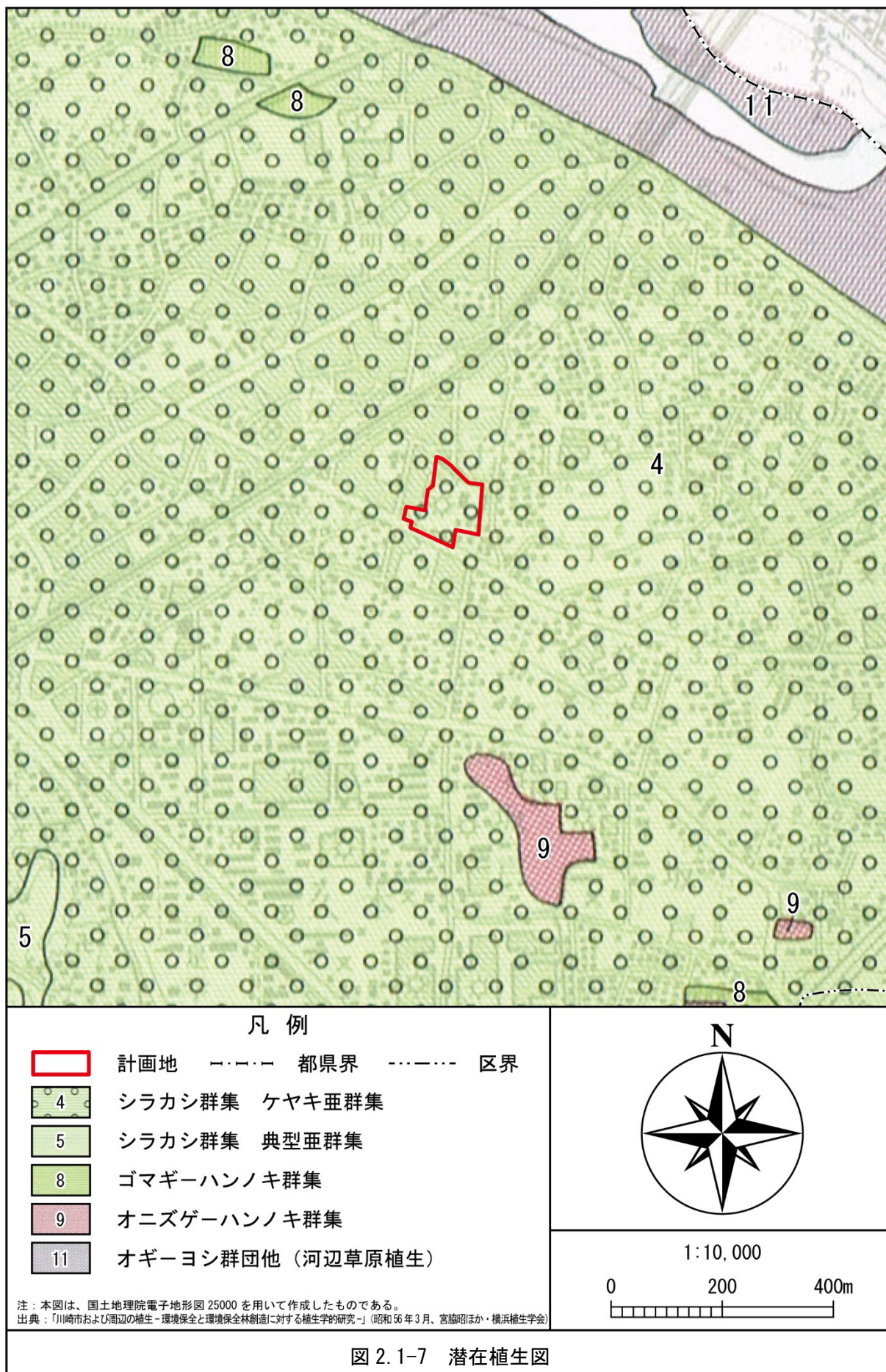
また、川崎市における令和元年度から令和5年度における農地面積は表2.1-3に示すとおりであり、緩やかな減少傾向にある。

表 2.1-3 川崎市における農地面積（令和元年度～令和5年度）

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
農地面積	361ha	357ha	356ha	353ha	347ha

出典：「令和6年度版 かわさき環境白書」（令和6年11月発行、川崎市HP）





2.1.5 人口、産業の状況

(1) 人口、世帯数等

計画地及びその周辺の属する高津区及び川崎市全体の人口及び世帯数は表 2.1-4 に、計画地が位置する高津区二子 4 の過去 5 年間の人口及び世帯数の推移は図 2.1-8 に示すとおりである。

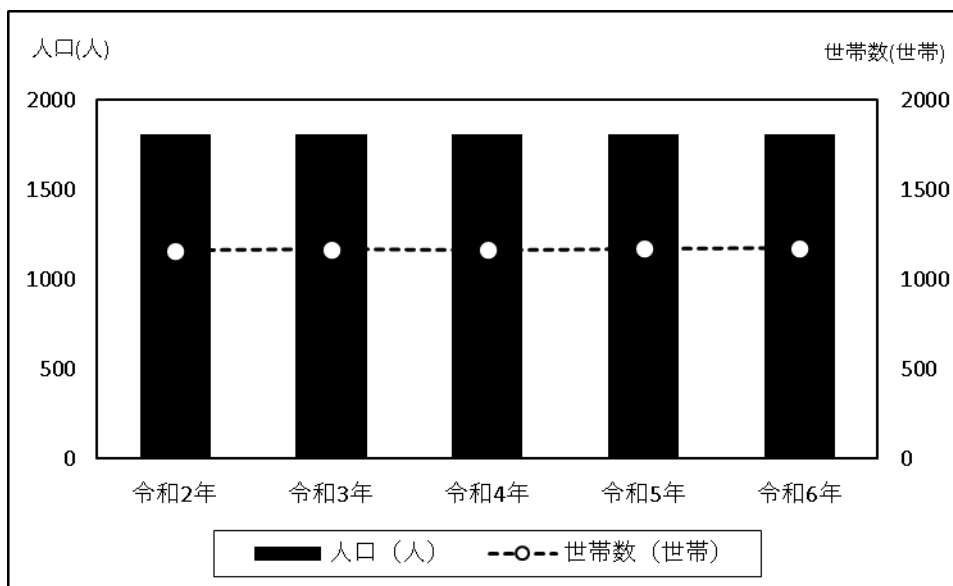
また、計画地周辺の町丁の状況は、図 2.1-9 に示すとおりである。

計画地が位置する高津区二子 4 の人口は 1,809 人、世帯数は 1,173 世帯（令和 6 年 12 月末日現在）であり、令和 2 年以降はほぼ横ばい傾向である。

表 2.1-4 人口及び世帯数等の状況（令和 6 年 12 月末日現在）

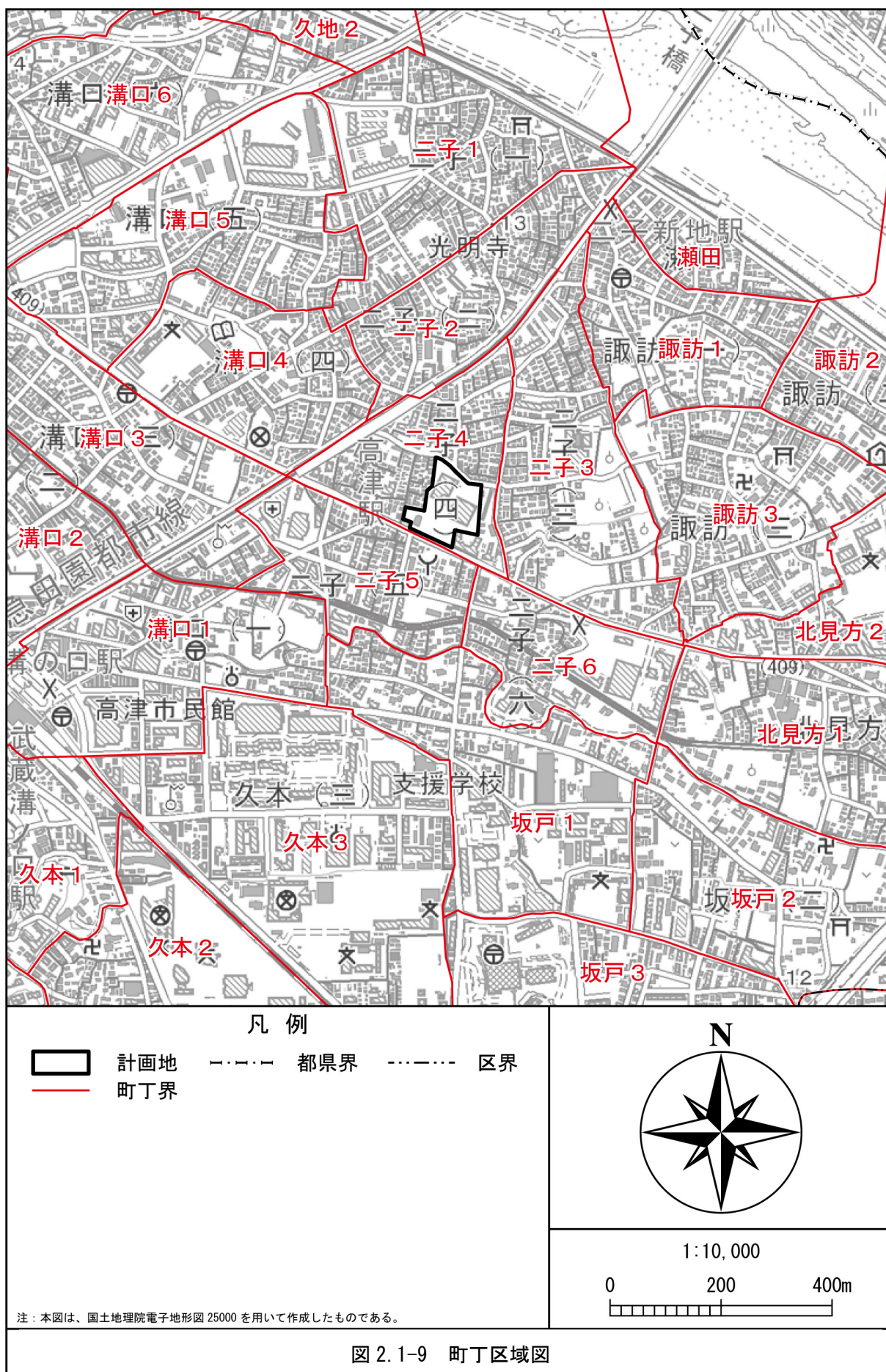
対象地域		人口 (人)	世帯数 (世帯)	人口密度 (人/km ²)
高津区	二子 4	1,809	1,173	21,670
	二子 2	2,393	1,625	27,821
	二子 3	2,963	1,615	22,672
	二子 5	1,571	946	19,850
	二子 6	1,643	859	22,076
	溝口 3	3,782	2,335	25,828
	溝口 4	1,746	1,094	16,533
高津区全体		231,957	120,080	13,565
川崎市全体		1,535,141	799,973	10,635

出典：「町丁別世帯数・人口」（令和 7 年 1 月更新、川崎市 HP）



出典：「町丁別世帯数・人口」（令和 7 年 1 月更新、川崎市 HP）

図 2.1-8 高津区二子 4 の人口及び世帯数の推移（各年 12 月末日現在）



(2) 産業分類別事業所及び従業者数

計画地の属する高津区及び川崎市全体の産業分類別事業所数及び従業者数は、表 2.1-5 に示すとおりである。

高津区における従業者数では、「卸売業、小売業」が最も多く、次いで「医療、福祉」、「製造業」の順となっている。

表 2.1-5 産業分類別事業所数及び従業者数（令和 3 年 6 月 1 日現在）

産業大分類		川崎市		高津区	
		事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)
A～R	全産業	41,223	547,471	5,915	70,032
A、B	農林漁業	74	561	14	79
C	鉱業、採石業、砂利採取業	－	－	－	－
D	建設業	4,108	31,236	573	4,060
E	製造業	2,838	68,560	601	8,487
F	電気・ガス・熱供給・水道業	41	685	4	160
G	情報通信業	930	35,867	137	3,031
H	運輸業、郵便業	1,248	34,806	100	3,032
I	卸売業、小売業	8,150	105,391	1,095	14,428
J	金融業、保険業	456	7,851	61	781
K	不動産業、物品賃貸業	4,349	17,190	773	3,250
L	学術研究、専門・技術サービス業	2,159	24,081	292	2,340
M	宿泊業、飲食サービス業	4,848	45,674	610	6,008
N	生活関連サービス業、娯楽業	3,208	18,319	440	2,525
O	教育、学習支援業	1,515	21,624	204	3,761
P	医療、福祉	4,841	85,460	682	11,480
Q	複合サービス事業	144	3,430	19	227
R	サービス業（他に分類されないもの）	2,314	46,736	310	6,383

注：「－」は該当数字がないもの。

出典：「令和 3 年川崎市の経済」（令和 6 年 2 月発行、川崎市 HP）